

こなん水辺公園ニュース

2011年6月号(通算第11号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

季節は梅雨となり、水にまつわる話題が多い季節になりました。県内でもアユ釣りの解禁となり、水に親しむ姿が報道でも流されています。

ここ水辺公園でも、初夏の景色が目に付きます。

公園のアシ原



水辺公園と言えば、アシ原でしょうか。すでにアシ腹の中では、オオヨシキリが産卵を終え、抱卵中の頃です。夏鳥たちは、7月中には子育てを済ませなければなりません。エサの多いこの時期に日本に来て、若鳥達が南の地にたどり着くだけの体力を付けるまでが親鳥の仕事です。

アシ原の中でどのような生活をしているのか興味が沸く所ですが、そっとして置く事が一番の手助けです。



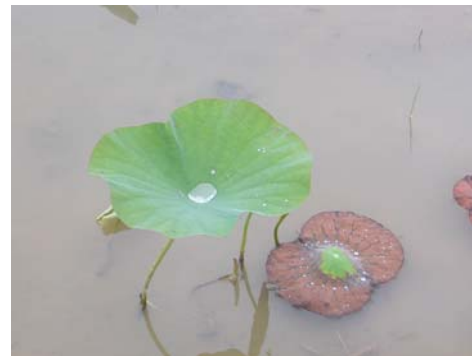
アシ原で見つけた「小さなクラフト」です。見にくいかも知れませんが、アシの葉が折りたたまれ、中には卵が産み付けられています。クモの仲間がする技ですが、作っている姿を見たことはありません。

よく見ると、小さな発見がたくさんあります。公園には解説員が居ます(土曜日と日曜日)一緒に探してくれますよ。

ハナハスの様子



6月中旬の畑にはまだ花は在りませんでした。花芽も見られず静かです。畑の中にあつたガマは取り除かれ、寂しい感じもしますが、手入れが行き届いた感じが見られます。



梅雨の時期の「ハスと雨つぶ」です。写真を撮りに行くとちょうど雨が降ってきました。空は明るいのですが、薄い雲が低く見られます。

葉を広げたばかりの小さな新芽。やさしく落ちてくる雨つぶを受け止めて、初々しく感じます。夏の盛りの頃には、花を咲かせてくれるでしょう。

田んぼの様子



5月29日に公園内の田んぼで、田植えがありました。

公園を管理している金沢市の「みどりと花の課」が参加者を募集し、150人近くが参加しました。それから3週間、早苗たちは、土の中にしっかりと根を張り、ゆっくりと成長しています。10月の稲刈りまでほとんど人の手は入りません。雑草も生えますが、それで良いのです。

レンゲの種



ここにはレンゲの畑があります。すでに花は終わり、種もはじけてしまいました。よく見ると、種のサヤもありました。

絶たれた命

6月5日に撮った写真です。

鳥のタマゴ



鳥に詳しい方に聞きました。大きさから見ると、サギのタマゴだそうです。

公園内で同じ物を3個見つけました。午前中に2個だった物が、昼過ぎにもう1個増えていました。昼間に活動する動物の仕業です。ハシブトカラスならこれくらいの技が出来そうです。

他の解説員に聞くと、「無精卵を落とす事もある」との事。ペアになれなかったメスは、巣を作れず、ところ構わずに生み落とすこともある、とか・・・。

ハス畑は、中の雑草を取り除くために、田起こしの時にトラクターを入れます。この時、トラクターの刃で切られたハスの根がたくさんあります。地表に出てきた物は干しあがり、死んでしまいます。

でも、土の中では多くが生き残り、新しい芽を出し、美しい花を付けるのです。

土に帰る



トビの仕業でしょうか。ミサゴかも知れません。畑の中にありました。口の形からしてフナに間違いありません。

鳥達の力によって、水の中の栄養が陸に上げられます。このフナにしてみれば迷惑な話かも知れませんが、自然の中では当たり前の事です。

同じように、カゲロウが水から飛び立つ事により、河川の水から有機物が陸に戻ります。このように、生き物が自然の再生に役に立っているのです。



ワルナスビ



「ナスの花と親の言葉に無駄なものはない」と言うことわざがあります。

この花の名前は、ワルナスビです。ナスの仲間には違いありませんが、かなりの厄介者です。茎や葉のいたる所にトゲがあり、駆除するのも大変です。しかも、根は腐らず越冬し、春にはその部分から芽を出します。

外来種かどうかは知りませんが、他の場所では見たことがありません。でも、ナスの原種に位置する物かも知れません。「学習の余地あり」です。

花にハチが来ています。受粉を手伝う虫達は人の気持ちなど考えてはいません。数週間後には、白い実の中に種を付けることでしょう。無駄のない事の例え話に使われるほど、確実に実を付けます。

バードウォッチング



公園の鳥達を見に来る方はたくさんいます。私は鳥の事はあまり詳しくないのですが、めずらしい鳥もいるようです。

朝から大きな望遠レンズを付けたカメラを持って、座り込んでいます。アシ原から飛び出てくるのを待っているのです。2, 3時間は平気でいます。

時々、近づいて「30分に一度くらいで結構ですから、移動してください」と声掛けをしています。人が居ることで巣に近づけない親鳥がいるかも知れないからです。野鳥を愛する方々ですが、目的の鳥のことしか見えない様では困ります。

人はあくまでも、「傍観者」です。子育ての邪魔をしてしまつては、「破壊者」となってしまいます。

(写真・文 河合雄二)

発行 2011年6月19日

制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)

連絡先 〒929-0342 津幡町北中条ナ9-9 河北潟湖沼研究所 tel.076-288-5803